

青森県におけるモモ在来品種の探索

土師 岳・八重垣 英明・山口 正己

果樹研究所・遺伝育種部・核果類育種研究室

Exploration and Collection of Local Varieties of Peach in Aomori Prefecture

Takashi HAJI, Hideaki YAEGAKI and Masami YAMAGUCHI

Laboratory of Stone Fruit Breeding, Department of Fruit Breeding, National Institute of Fruit Tree Science. 2-1 Fujimoto, Tsukuba, Ibaraki 305-8605, Japan

Summary

In order to collect germplasm for cold tolerance of peach, an exploration for local varieties of peach in Aomori Prefecture was conducted from September 8th to 11th. During this exploration, scions for bud grafting were collected from a total of 8 samples, 7 of *Prunus persica* Batsch and 1 of *P. davidiana* (Carr.) Franch. These local peach varieties were expected to have useful characters as a rootstock especially for cold tolerance.

KEY WORD: Aomori prefecture, exploration, local varieties, peach

1. 目的

モモは中国原産でわが国には縄文時代後期または弥生時代に渡来したと考えられており^{2), 5)}, 江戸時代には各地で様々な在来品種が存在していた記録が残っている³⁾. しかし現在の栽培品種は明治初年に中国から導入された‘上海水蜜桃’をもとに育成されてきたもので、在来品種はその成立に関与していないと考えられている^{1), 5), 6)}. 明治以前の在来品種に由来するモモは今日果樹としては栽培されていないが、地域によっては放任樹や野生化したものが残存しており、一部は台木として利用されている⁷⁾. これらのモモは近年山間部の開発や過疎化により急速に消失しているため、その収集と保存は急務となっている. また最近岐阜県や山梨県では凍害によるモモの枯死が問題になっており、耐寒性台木の育成が強く望まれている. そこで今回モモの耐寒性台木の新たな素材となる遺伝資源を得るため、在来モモの分布北限と考えられる青森県での探索を実施した.

2. 調査・収集方法

今回の探索は事前に現地で得た情報等をもとに平成 15 年 9 月 8 日から 11 日まで下北半島と弘前市周辺で実施した (Table 1, Fig. 1). 青森県内での移動にはレンタカーを用い、下北半島での探索には青森県農林総合研究センターりんご試験場県南果樹研究センターの福田典明主任研究員とむつ地域農業改良普及センターの杉本佐知子技師に、弘前市周辺での探索には青森県農林総合研究センターりんご試験場の山谷秀明育種部長に同行していただいた。

収集にあたっては芽接ぎ用の穂木を採取するとともに、幹周、樹勢、結実性、果皮の毛じの有無を調査し、所有者との面会が可能であった場合は、来歴などの聞き取り調査を実施した。

3. 収集結果

今回の探索ではモモ (*Prunus persica*) を 7 系統、ノモモ (*Prunus davidiana* (Carr.) Franch) を 1 系統採集した (Table 2).

下北半島で 9 月 9 日に行った探索では、東通村で毛桃 1 系統 (‘下北在来目名’) と油桃 1 系統 (‘下北在来砂子又’), 大畑町で油桃の ‘じんべえもも’, 川内町で毛桃の ‘さねこうばい’ を採集した。これらのモモはいずれも庭先、空き地、畑の中に植えられており、‘下北在来目名’, ‘じんべえもも’ および ‘さねこうばい’ については昭和 40 年頃までは果実を食用にしていたことを聞き取った。このうち ‘じんべえもも’ は所有者の畑中磐美氏が品種の保存とともに過去の栽培状況について調査を行っていたため、大畑町の小目名地区を中心に江戸時代より実生繁殖で維持されてきた品種であること、かつては「飢饉に備えて ‘じんべえもも’ を絶やすな」と言い伝え、果実を漬け物や砂糖漬けなどの保存食に加工していたこと、昭和 20 年頃までは近隣の町で販売したり漁村でイカなどの海産物と物々交換していたことを畑中氏より聞くことができた。また ‘さねこうばい’ は樹齢 60 年以上で、品種名は核周辺が赤いことに由来しているとの説明を所有者から受けた。なおこの品種名は江戸時代に下北半島を統治していた南部藩の産物帳に記載されていることが報告されている³⁾。

9 月 10 日に探索を行った黒石市の板留、高清水山、浅瀬石の周辺は、かつてモモが多数自生していたと報告されている地域であるが⁴⁾、今回の探索では自生は確認できなかった。しかし聞き取り調査では昭和 30 年代前半まではモモが川岸や山中に自生していたものの、現在では護岸工事、植林、リンゴ園への開墾などにより消滅したと述べた人がいた。この地域では空き地や山道沿いの斜面に放任されているもの 2 系統 (‘津軽在来黒石’, ‘津軽在来浅瀬石’) を採集した。

9 月 11 日は弘前城公園でモモ近縁種であるノモモ 1 系統を採集した。来歴などについて公園管理事務所に問い合わせた結果、昭和 30 年代に花木業者が寄付したものでロトウザクラとも呼ばれていること、開花期はソメイヨシノより早くほとんど結実しないことを聞き取った。また鱒ヶ沢町の小の畑地区では道路脇に植えられている毛桃 1 系統 (‘津軽在来小の畑’) を採集した。所有者の本間チヨ氏に聞き取り調査を行った結果、昭和 14 年に同氏が嫁いで来た時には成木であったこと、昭和 40 年頃までは果実を生食していたことを確認した。

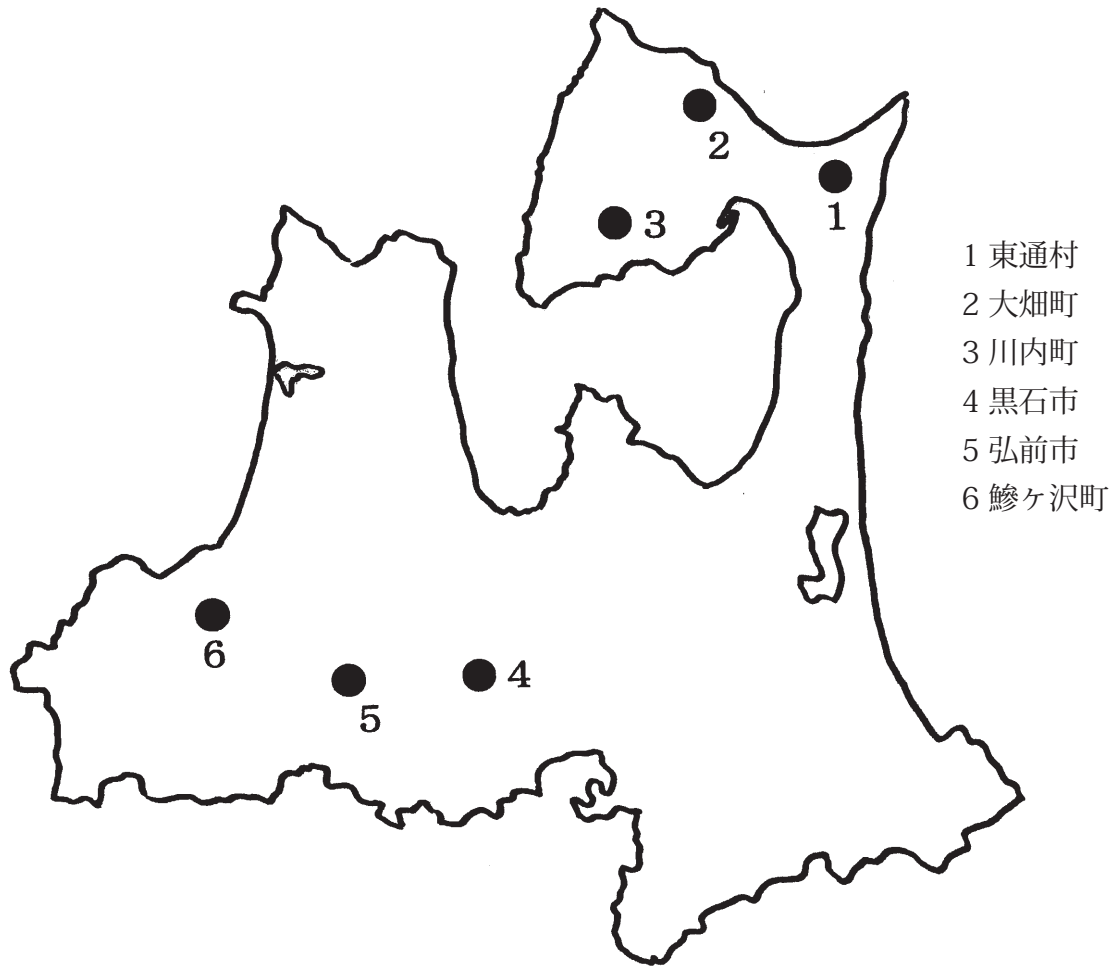


Fig.1 Collection sites of germplasm in Aomori prefecture.

● : Collection sites

青森県における遺伝資源の収集地点

● : 収集地点

Table 1. Itinerary of exploration

探索収集日程

月 日	旅 程
9. 8	つくば市→八戸市→むつ市
9. 9	むつ市→東通村→大畑町→川内町→青森市
9.10	青森市→黒石市
9.11	黒石市→弘前市→鱒ヶ沢町→青森空港→つくば市

4. 所感

今回調査した地域ではニホンナシの在来品種と思われる大木も残存していた。また下北半島ではかつてニホンスモモの在来種が多数存在していたことを聞き取った。これらの果樹は昭和40年代になると食生活の変化に伴い利用されなくなり、最近では圃場整備や道路工事に伴う伐採により急速に減少しているとのことであった。そのためモモ以外の樹種についてもこれらの地域での探索を早急に行う必要があると感じた。

5. 謝辞

今回の探索では青森県農林総合研究センターりんご試験場の山谷秀明育種部長、同県南果樹研究センターの福田典明主任研究員、むつ地域農業改良普及センターの杉本佐知子技師に多大な協力をしていただきました。またモモの所有者の皆様には突然の訪問にもかかわらず、穂木の分譲とともに来歴などの説明をしていただきました。ここで心より感謝の意を表します。

6. 引用文献

- 1) 菊池秋雄. 1948. モモ. p.129-170. 果樹園芸学 上巻 果樹種類各論(養賢堂). (東京).
- 2) 小林章. 1990. モモ(桃) 日本の原始・古代社会と果物の利用. p.107-118. 文化と果物(養賢堂). (東京).
- 3) 盛永俊太郎・安田健. 1986. 陸奥国南部領(盛岡領). p.9-18. 江戸時代中期における諸藩の農作物 享保・元文諸国産物帳から(日本農業研究所). (東京).
- 4) 佐藤耕次郎. 1932. 野生状態の桃李及び梨は果たして古昔の逸出品か. 植物研究雑誌 8: 88-95.
- 5) 山口正己. 2004. モモ. 農学大事典 園芸作物(山崎耕宇編, 養賢堂). (東京). p.494-495.
- 6) Yamamoto, T, K.Mochida and T. Hayashi. 2003. Shanhai Suimitsuto, one of the origins of Japanese peach cultivars. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 72: 116-121.
- 7) 吉田雅夫. 1996. モモ 台木利用の変遷と現状. 果樹台木の特性と利用(河瀬憲次編, 農文協). (東京). p.339-340.

Table 2. List of collected samples
 収集品リスト

系統名	学名	採集地	幹周	樹勢	結実	果実	所有者	備考
下北在来目名	<i>Prunus persica</i>	下北郡東通村目名	80cm	強	良	毛桃	菊池もみ	約 40 年生の実生樹
下北在来砂子又	<i>Prunus persica</i>	下北郡東通村砂子又	25cm	中	良	油桃	南沢栄太郎	偶発実生
じんべえもも	<i>Prunus persica</i>	下北郡大畑町小目名	35cm	強	良	油桃	畑中磐美	江戸時代からの品種
さねこうばい	<i>Prunus persica</i>	下北郡川内町畑	55cm	強	良	毛桃	下山秀男	60 年以上前から栽植
津軽在来黒石	<i>Prunus persica</i>	黒石市花園町	35cm	やや強	良	毛桃		
津軽在来浅瀬石	<i>Prunus persica</i>	黒石市浅瀬石	20cm	強	なし			
津軽在来小の畑	<i>Prunus persica</i>	西津軽郡鱒ヶ沢町小の畑	37cm	やや強	良	毛桃	本間ミヨ	昭和 14 年以前に栽植
ノモモ	<i>Prunus. davidiana</i>	弘前市弘前城公園	91cm	中	なし		弘前城公園	昭和 30 年代に花木業者が寄付



Photo 1.' じんべえもも' の結実状況.



Photo 2.' じんべえもも' の砂糖漬け (畑中磐美氏が再現したもの).



Photo 3.' さねこうばい' の栽植状況.



Photo 4.' 津軽在来小の畑' の結実状況.